39 がん医療総合センター
Cancer Center

●センターの特色●

当院は地域がん診療連携拠点病院に認定されており、三島圏域のがん診療の重要な役割を担っています。

従来、各診療科それぞれが、きめの細かいがん診療を行ってきましたが、全人的がん医療を継続的に提供することを目的に、がん医療総合センターを設立し質の高い高度ながん医療を実施しています。新手術棟の完成による高難度手術・高精度放射線照射、がん遺伝子プロファイリング検査、がん免疫療法などの先端的がん診療機能を結集し、大阪医科薬科大学病院の特色のあるがん医療の開発を目指します。地域がん医療の深化が求められる現在、がん医療総合センター機能をより一層強化するため、臨床・研究・教育のさらなる充実をはかり、社会に開かれた安全で質の高いがん医療を提供しています。

鰐渕 昌彦(わにぶち まさひこ)がん医療総合センター長

■専門分野
脳腫瘍、頭蓋底腫瘍、間脳下垂体腫瘍

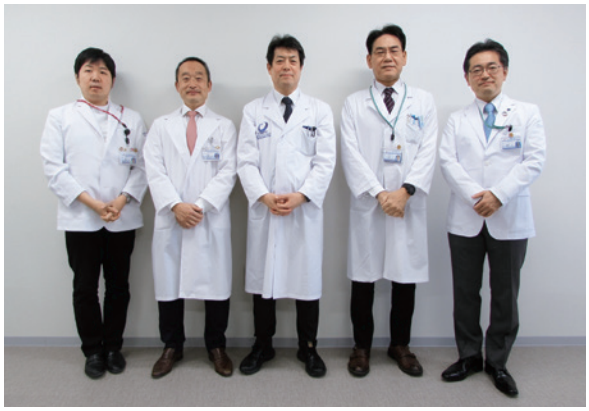
■職歴
平成　3年　札幌医科大学卒業
令和 元年　脳神経外科 教授

■主な学会／専門医資格
日本脳神経外科学会 専門医・指導医、日本神経内視鏡学会 技術認定医、
日本内分泌学会 内分泌代謝科(脳神経外科)専門医、日本脳卒中の外科 技術指導医

■研究課題
頭蓋底微小解剖の研究、悪性脳腫瘍の浸潤機序解析

●センターの概要・特徴●

がん医療総合センターは、がんに関する情報の集約分析並びに対がん戦略の企画立案、がん登録、集学的治療を円滑に行うためのがん治療支援、がんの治験・臨床試験の活性化支援、がんの先端医療の開発、そして広報の活性化並びにがん専門教育研修実施の基盤整備に関する業務を多職種が連携して行っています。これにより、がん診療連携拠点病院としての機能の向上、病病・病診連携の拡充、治験・臨床試験などがん臨床研究の推進 、がん専門医療人の育成、積極的ながん医療情報発信が可能となりました。特に研修医の先生方には、がん治療支援部門を中心に、集学的治療の実践を通じてがんチーム医療の重要性を理解頂きたいと思います。また、当センターでの研修を通じ、臨床腫瘍学・緩和医療学の視点からがん診療を見つめ直すことで、臓器別に得ていた今までのがんに関する知識がより深化し融合し、全人的がん診療を実践できる医師の養成に取り組んでいます。



●センター指導医・上級医●

氏 名(職 掌)	専 門 医	研究課題等
二瓶圭二(教　授)	がん治療認定医・放射線治療専門医	放射線治療全般
後藤昌弘(特務教授)	がん薬物療法専門医・消化器専門医	消化器癌の薬物療法
藤阪保仁(教　授)	がん薬物療法専門医・呼吸器専門医	胸部腫瘍の薬物療法・早期開発臨床試験
新保大樹(講　師)	放射線治療専門医	放射線治療全般
山口敏史(講師(准))	がん薬物療法専門医・総合内科専門医・消化器専門医	固形がんの薬物療法
田村洋輔(助　教)	がん治療認定医・呼吸器専門医	胸部腫瘍の薬物療法
浅石　健(助　教)	緩和医療専門医・総合内科専門医・消化器専門医	EBMに基づく緩和医療の創出

■連　絡　先：大阪医科薬科大学病院がん医療総合センター　TEL：072-683-1221（内線 3082）
■ホームページ：https://hospital.ompu.ac.jp/cancercenter/

初期臨床研修プログラムの特徴

本プログラムで、がん診療業務に不可欠な知識、技能、臨床力、心構えを習得します。悪性疾患の管理には、多くの異なる医学専門分野の専門技能が必要ですが、がん医療総合センターの臓器横断的・職種横断的な人材配置により高度な集学的がん診療の習得が可能です。

消化器悪性腫瘍（胃がん、大腸がん、食道がんなど）、呼吸器悪性腫瘍（肺がん、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍など）や原発不明癌などの病態診断と治療を学びます。また、分子標的治療薬・免疫療法の登場により複雑化した治療体系を整理し、個別化治療導入の基本を理解します。さらに、EBMに基づいた、がん薬物療法を実践することで標準治療を理解し、ゲノム医療、治験や臨床試験および臨床研究倫理などの重要性を理解します。

身体的および精神的苦痛の把握と理解を通じ、全人的ながん診療を習得するため、緩和ケアチームの一員として研修を行うことも可能です。緩和ケアチームでの活動を通じて、多職種が連携し全人的苦悩（total suffering）から解放されるよう、患者のクオリティ・オブ・ライフ（Quality of life: QOL）の向上を目指す緩和医療（Palliative Medicine）の重要性を理解します。アドバンス・ケア・プランニング（ACP）についての理解を深めます。また、訪問診療に同行することで、在宅における緩和ケアの実際を経験します。患者の医療・ケア・生活を支える地域のリソースを知り、地域において医療福祉従事者が連携することの重要性を理解し、人生の最終段階においても患者が望んだ場所で過ごせることを学びます。

研修内容と到達目標

〈一般目標：GIO〉

患者を指導医のもと診療し、各症例を詳細に検討することにより、専門的な知識・技術を修得し全人的ながん診療の実践を目標とします。がん薬物療法や緩和・支持療法においては標準治療を理解し実践し、さらなる治療成績向上のために行われる治験や臨床試験の重要性を理解するとともに研究の科学性や倫理的配慮などを習得します。

〈経験目標：SBOs〉

基本的な診療技術の習得

・①患者診察ができる。②臨床検査の適正な評価ができる。③画像検査の適正な評価ができる。④患者、その家族、および医療従事者とのコミュニケーション力の向上。⑤職業的責任を倫理原則に基づきプロフェショナリズムを遂行する。

がん薬物療法の臨床実践

・①薬物療法の理解と適応を決定する。②エビデンスに基づいた治療適応を判断する。③抗がん薬の毒性プロファイルを理解し、患者状態（臓器障害等の場合）にあわせた投与計画をたてる。④がん薬物療法の支持療法を習得する。⑤治療効果判定と有害事象の評価をする。

緩和ケア

・①症状マネジメントを学ぶ。②心理社会的側面について学ぶ。③倫理的側面を学ぶ。④チーム医療を学ぶ。

評価方法

評価：EV（Evaluation）

当院共通の研修評価表により、研修医の評価を行います。

スケジュール（A,B,Cあわせて4週間　各々2週間以上のローテーションが望ましい）

A　緩和ケアセンター研修

	9:00～	午　前	午　後	～17:00
月	9:00-がんセンターカンファ A棟12F がん医療総合センター		チーム回診・症例検討	行動目標シート提出（1週目のみ）
火	緩和ケア外来（浅石）		チーム回診	チーム回診
水	ペインクリニック外来		チーム回診	16:00～チームカンファレンス
木	緩和ケア外来（浅石）		チーム回診（放射線腫瘍科）	17:00-転移性骨腫瘍CB（隔週） 17:30-CB（臨時） 6号館地下
金	訪問診療同行（院外研修）　最終週のみ まとめ 浅石			
土	病棟（第1, 3, 5週）		——	——

B　化学療法センター研修（主に消化器がん）

	9:00～	午　前	午　後	～17:00
月	がんセンターカンファ A棟12F	9:30-再診 後藤/山口/角埜	13:30-初診 後藤/山口	15:00-GIキャンサーボード（CB） 18:00- 外科カンファレンス
火	8:30-化学療法センター 2号館3階	9:30-再診 武本/由上	13:30-初診/再診 武本/由上	17:30-エキスパートパネル A棟12階　ゲノム管理室
水	8:30-化学療法センター 2号館3階	9:30-再診 後藤/由上/角埜	13:30-初診/再診 由上/角埜	——
木	8:30-化学療法センター 2号館3階	9:30-再診 山口/武本	13:30-初診 山口/武本	17:00-転移性骨腫瘍CB（隔週） 17:30-CB（臨時） 6号館地下
金	8:30-化学療法センター 2号館3階	9:30-再診 後藤/武本	13:30-初診 後藤	16:00-まとめ　後藤（最終週のみ）
土	病棟（第1, 3, 5週）		——	——

C　呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科

	8:30～9:00	午　前	午　後	～17:00
月	8:30-治験カンファレンス（77病棟カンファルーム）	病棟業務	13時～外来（藤阪）	——
火	——	病棟業務 9:30-気管支鏡検査 A棟4階	病棟業務・14:00-教授回診 15:30-呼吸器カンファ77病棟	17:30-18:30（隔週・Web） 近畿大学エキスパートパネル
水	——	病棟業務	病棟業務	——
木	8:30-抄読会 Web or 77病棟	病棟業務 9:30-気管支鏡検査 A棟4階	病棟業務・外来（田村）	17:00-転移性骨腫瘍CB（隔週） 17:30-CB（臨時） 6号館地下CR
金	Lung disease conference 8:30～外科棟1F会議室	病棟業務	病棟業務 最終週のみ まとめ 藤阪	——
土	——	病棟（第1, 3, 5週）	——	——

＊C：初日のみ、9:30内科総合医局集合、10時～レクチャー（肺癌薬物療法・田村）